はるか

ゆたかな暮らしの情報紙

令和8年 秋 号

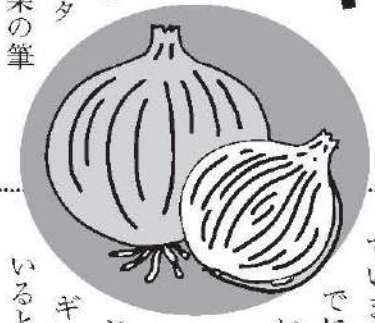
「ありがとう」を花(おく)せるお葬式
東京　千葉　埼玉　神奈川
株式会社 孝行舎
―お見積り無料　ご相談随時受付―
本社(こうこう庵併設)：東京都足立区中央本町4-17-2
葬儀サロン：東京都足立区中央本町1-19-2
赤坂営業所：東京都港区赤坂2-14-5 Daiwa赤坂ビル7階
高島平出張所：東京都板橋区新河岸1-9-3
0120-81-5548(はい ごうこうしゃ)
孝行舎 検索
深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

○すこやか「食」の旅――タマネギ
○ご存じですか？――「チャーリー・チャップリン」
○伝統のモノ――筆記具
○花ものがたり――シュウメイギク
○生活の中の仏教語――世智
○仏事と葬儀の知識――般若心経

すこやか「食」の旅

タマネギ

ハンバーグにカレー、肉じゃがなど、家庭料理の定番メニューには「タマネギ」が欠かせません。味・栄養ともに優れているうえに保存性の高い「タマネギ」は、どのご家庭でも常備野菜の筆頭に挙げられるのではないでしょうか。



◆「ラッキョウのおばけ」

「タマネギ」は、江戸時代に南蛮船で長崎に渡来したという記録があるそうですが、その当時はまだ普及するには至らなかったといいます。

しかし、明治時代になって日本の食卓が洋風化するにつれて、アメリカから導入した「タマネギ」が、日本でも本格的に栽培されるようになります。ところが「タマネギ」は当初、「ラッキョウのおばけ」と揶揄され、なかなか受け入れられなかったそうです。

そんな折、関西で流行し始めたコレラに〝タマネギが効くらしい〟という噂が立ち、「タマネギ」は一気に一般家庭にも広まったといわれます。もちろんこの噂は真実ではなく、ただの迷信にすぎなかったようです。

◆ピラミッド建設に一役買ったタマネギ

「タマネギ」の原産地は、中央アジアや近東（ヨーロッパに比較的近い東洋諸国）だといわれています。その歴史は非常に古く、紀元前にすでにエジプトや地中海沿岸地域で栽培されていたと考えられています。

事実、紀元前3000年頃の古代エジプトの壁画に「タマネギ」が描かれ、また、疲労回復や健康保持のために、ピラミッドの建設に従事する労働者たちに「タマネギ」が支給されていたという記録も残されているといいます。

■タマネギの効能

たとえコレラには効き目がなかったとしても「タマネギ」が〝台所に常備された妙薬〟であることに変わりはありません。その証拠に「タマネギ」は近年、糖尿病や高血圧、肥満などの生活習慣病の〝特効薬〟としても大いに注目されているのです。

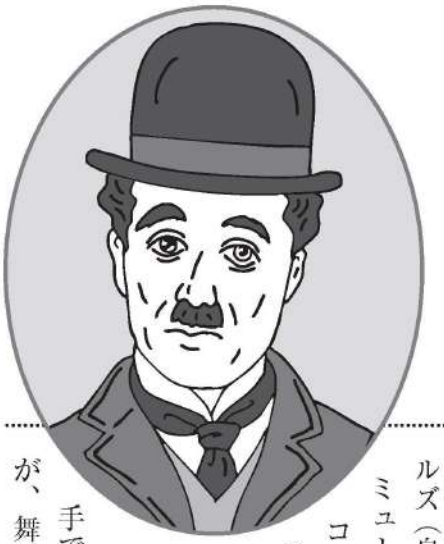
「タマネギ」には糖質やカリウム、亜鉛やリン、ビタミンB群やビタミンCなどの栄養成分が豊富に含まれています。とくに「タマネギ」の刺激成分である硫化アリルは、血栓（血液の凝固）を抑制して血液をサラサラにするとともに、コレステロールの代謝を高めて動脈硬化や脳梗塞などを予防する働きもあります。

おすすめ／超簡単健康食

酢タマネギ

（作り方）①タマネギ2個を薄くスライスし、塩を少々ふっておく　②15分ほど置いてタマネギがしんなりしたところで塩を洗い流し、軽く手でしぼって水分を取る　③②を広口ビンに入れて酢350cc（できればリンゴ酢）を加え、冷蔵庫で3日ほど置けば完成（※毎食、小皿に1盛り分を目安に食べ、漬け汁は飲んでもよい）

ご存じですか？「チャーリー・チャップリン」



私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きっとこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

＊　　＊

今回は、喜劇王チャーリー・チャップリンについてご紹介しましょう。

「チャップリン」といえば、山高帽にチョビ髭、小さめの上着にだぶだぶのズボン、そしてドタ靴にステッキという独特の扮装が思い浮かびます。この人物について当のチャップリンは次のように述べています。

――この男は、じつに複雑な人間なのだ。浮浪者かと思えば紳士でもある。詩人にして夢想家、そして孤独でさびしい男。それでいて、いつもロマンスと冒険を求めている――

では、素顔のチャップリンはどのような人物だったのでしょうか。

■5歳で初舞台

チャーリーの愛称で親しまれたチャップリン（本名チャールズ・スペンサー・チャップリン）は、1889年4月16日、ロンドンの下町、ケニントン・ロードで生まれます。父チャールズ（息子と同名）、母ハンナともにミュージック・ホール（歌・踊り・コントなどさまざまな演芸を見せるイギリスの大衆寄席）の芸人でしたが、両親はチャップリンが生まれた翌年に離婚しています。

そんな状況のなか、物真似上手で甘い声の持ち主だったハンナが、舞台出演中に突然声が出なくなり、いつも舞台のそでで母の芸を見ていた5歳の息子が、急きょ代役を務めてその場をしのぎます。

これが期せずして初舞台となり、子役としてキャリアを積んだチャップリンは、後に映画界に入り、サイレント映画史上に残る数々の傑作を生み出していくのです。

■どん底暮らし

5歳で〝初舞台〟を踏んだとはいえ、幼少時代のチャップリンは、当人が自伝にも書いているように「どん底暮らし」を余儀なくされます。

ことに母のハンナが心身の調子をくずして入院した7歳の頃には、兄のシドニーとともに〈孤児と貧しい子どものための学校を兼ねた施設〉に一時的に収容され、さびしい日々を経験することになります。

■母の存在

親子が離ればなれにならざるを得ない時期もありましたが、後のチャップリンの作品に大きな影響を与えたのは、母ハンナの存在でした。

ハンナは、貧しい暮らしの中でも子どもたちを楽しませるために、かつて目にした名優の演技を真似て見せたりすることもあり、そんな母をチャップリンは世界一のパントマイム芸人だと評しています。そして、その才能は息子にもしっかり受け継がれることになるのです。

また、ハンナの子どもたちへの接し方についてチャップリンは「当時の私たちのようなどん底暮らしをしていると、つい言葉づかいなどにもかまわないようになりがちだが、子どもたちが周囲の風に染まぬように母はいつも心がけ、家族の言葉づかいにも注意深く心を配った」とも述べています。

たとえボロをまとっていても品よくあれという母の教えは、チャップリンが演じる〝浮浪者チャーリー〟の人物像にも、色濃く投影されているように思われます。

■日本びいき

チャップリンは、1932年（昭和7年）に初来日して相撲や歌舞伎を楽しみ、以後、1936年、1961年（昭和36年）にも訪れています。チャップリンの日本についての感想は、日本が近代化して欧米とミックスしたような文化はどうもお気に召さなかったようですが、日本ならではの伝統美には大いに共感を覚えていたといいます。因みに、チャップリンが映画で愛用していたステッキは、どれも日本製でした。

伝統のモノ

筆記具

―文明の発展を支えた道具

デジタル化が益々進む現在、ペンを持って紙に書くなど無駄なことだという意見もあるかもしれません。しかし、このような時代だからこそ、実際に文字を書いて記録するという行為が、より大事になってくるのではないでしょうか。

筆記具のはじまり

紀元前3000年以前に古代メソポタミアで発明されたという文字は、粘土板に葦の茎を削ったペンで刻まれ、その断面がv字形の楔の形をしていたことから「楔形文字」と呼ばれています。つまり、いまでいう「ノート」と「ペン」のはじまりは、「粘土板」と「葦の茎」だったというわけです。

筆・墨・硯

日本における筆記具のはじまりは「筆」「墨」「硯」だといわれますが、大陸から伝わったそれらの道具を、日本人がいつ頃から使い始めたのか、その時期をはっきりと確定することは難しいそうです。

しかし、墨で書かれた文字（墨書）は土に埋もれていてもなかなか消えることがなく、たとえば、飛鳥時代の遺跡から出土した木簡（木を削ってそこに文字を書き記したもの）の墨書は、当時における筆記具の使用を裏付けるものだといいます。

大仏開眼と筆記具

聖武天皇の発願で開始された東大寺大仏の建立。その鋳造と鍍金（金メッキ）の作業がほぼ終了した天平勝宝4年（752年）に、開眼供養会（大仏に眼を入れて魂を迎え入れる儀式）が厳かに執り行われました。

その折に使用された筆は、軸の長さが56cm余（軸の径は4cm余）、舟形をした墨もまた筆に劣らぬ大きさで、長さが52cm余もありました。この筆（天平宝物筆）と墨（天平宝物墨）は現在も正倉院に収められており、現存する日本最古の筆と墨だといわれます。

携帯用筆記具「矢立」

平安・室町時代、日常的に文字を書いていたのは主に貴族で、絵巻物にもその様子が描かれ、筆記具も蒔絵の硯箱など意匠をこらした名品が数多く制作されました。

また、鎌倉時代になって登場したとされるのが、屋外での筆記を可能にした「矢立」で、墨壺と筆を一緒に収納したこの携帯用筆記具を主に使ったのは武士でした。因みに矢立という名称は、戦場でも軽便に使えるように、箙（矢を収める武具）に入れた小型の硯のことを〝矢立の硯〟と称したことに由来するといわれます。

そして江戸時代、矢立は旅の必需品となり、あらゆる人たちが携帯する筆記具へと発展していきます。

万年筆の登場

しかし明治以降、日本の筆記事情に大きな変化がおとずれます。ペンとインクが一体となり、矢立と同様に屋外での筆記を可能にした西洋の筆記具「万年筆」の登場が、和紙に書く毛筆から洋紙に書くペンへの移行を、私たちにもたらすことになるのです。

＊こだわりの筆記具＊

新し物好きだった**宮沢賢治**は、発売されたばかりの**「シャープペンシル」**をいち早く使い、手帳とともにそれを首から下げて山野を歩き、頭に浮かんだことを書き留めていたそうです。

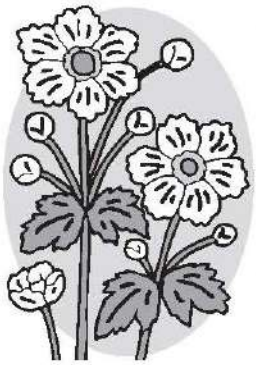
また、テレビドラマなどの脚本で知られた**内館牧子**は、文字は「書く」もので「打つ」ものではないと、**「6Bの濃い鉛筆」**を愛用して原稿用紙を埋めていたといいます。

花ものがたり

「シュウメイギク」

茶花としても用いられることの多い「シュウメイギク」は、キクの名が付くことから、キク科の植物と誤解されそうですが、全く別のキンポウゲ科の多年草です。

漢字で（秋明菊）と表記されるこの和名の由来は、秋に菊のような花を咲かせることにあるといい、日本初の園芸書といわれる『花壇綱目（かだんこうもく）』（１６８１年刊）にも、その名を見ることができます。



また「キフネギク（貴船菊）」という別称は、その昔、京都・鞍馬の古社、貴船神社の奥山で発見されたと伝えられることにより名付けられたともいわれます。

このような謂れから「シュウメイギク」は日本原産と思われがちですが、元来中国原産の植物で、古い時代に日本に渡来。寺院などで栽培されているうちに野生化し、全国に広がったものと考えられています。

＊花言葉……「遠ざかっていく愛情」など。

生活の中の仏教語

世智

一般に「世智」（「世知」とも）は〝世渡りの才〟を意味し、転じて、勘定高いことなどを指して用いられる言葉です。

「あの人は世智にたけている」と言えば、現実的で抜け目のない人のことをいいます。また、世渡りがむずかしくなった世相を嘆いて「世智辛い世の中になってしまったものだ！」などと言えば、人びとが計算高くて打算的になったことを意味します。

仏教でいう「世智」は「世間智」を略した言葉で、凡夫（「ぼんぷ」とも）の智恵のことです。この「凡夫」とは、聖者とは逆に仏教の道理を理解していない者、つまり、さまざまな欲望や執着などの煩悩にとらわれ、苦しみ悩む世界をさまよう人びとをいいます。

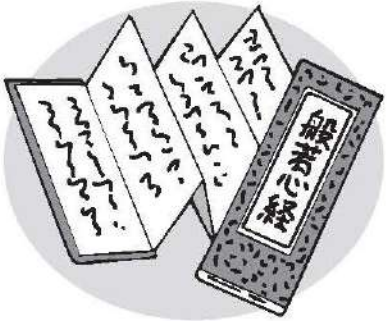
世渡りが上手なことは、一概に悪いことだとはいえませんが、そのことばかりに注力すると、ときに大切なことを見失ってしまうことにもなりそうです。

仏事と葬儀の知識

般若心経

写経をされる方にもおなじみの『般若心経』は、おそらく、日本人が日頃最もしばしば読誦するお経といえるのではないでしょうか（※浄土真宗や日蓮宗では読みませんが、このお経をご存じの方は多いと思います）。

『般若心経』の正式名称は『摩訶般若波羅蜜多心経』といい、全６００巻からなる『大般若経』を、わずか２６２文字で簡潔に説いたものです。因みに日本で読まれている『般若心経』は、『西遊記』で知られる中国唐代の僧・玄奘の訳によるものです。



このお経は、観自在菩薩（観音菩薩）がお釈迦さまの十大弟子の一人である舎利子（舎利弗）に説くという形をとり、その核心をなすのは「空」の教えです。

有名な文句「色即是空　空即是色」が表しているとおり『般若心経』は、

――この世界のあらゆる存在（色）は、決して永遠の存在でも実体のある存在でもない（つまりは「空」である）。ゆえに、それらの存在にこだわって執着するのは愚かなことであり、その執着心を捨て去れば、迷いや苦しみのない心安らかな悟りの境地に達することができる――と説いています。